

とある新潟大学生から見た稚内

二〇〇七年八月十九日～二十三日

代表 谷澤明音

二〇〇七年八月十九日、新大生（新潟大学生の略称）の五人は、初めて稚内に降り立ちました。新潟から小樽までフェリーで十八時間、札幌から稚内までバスで六時間・・・はるばるやってきた日本最北端の街の空気に触れた瞬間、私たちが発した第一声は「風が強い！」や「寒い！」でした。それもそのはず。新潟と稚内では気温に五度以上の開きがあり、加えて強風が吹き荒れていたのです。夏は必ず三十度を超えるところで育ってきた私たちにとっては、稚内のこの涼しい（強）風はうらやましい限りでした。

さて、バスを降りた私たちを迎えてくださったのは、湊谷さんと南野さんです。お二方は、稚内新エネルギー研究会に所属していらつしやいます。私たちは、「風のがっこう」プロジェクトから観光に至るまで、この五日間を通して、お二方ははじめ、佐々木先生、長谷川さん、そし

て稚内の様々な方々に変なお世話になりました。まず、お世話になった皆様に御礼申し上げます。

それでは、感想をありのままに書いた体験記を始めさせていただきます。

□稚内公園とエコ足湯

私が一番初めに間近で見た風車というのが、ここ、稚内公園の風車です。真下から見上げた風車は空高くそびえ立っており、その大きさに圧倒させられました。また、この日は曇りだったせいもあり、空と風車が迫ってくるような感覚に、ちょっぴり恐怖を感じてしまいました。でも、風車を遠くから見れば、やはり心が和みます。晴れた日の、空の青、風車の白、大地の緑というコントラストは絶妙です！

さて、稚内公園内の無料休憩所内には、やはり無料の「エコ足湯」があります。この足湯を暖めるために使われているのが、「大気吸熱型ヒートポンプ」です。わかりやすく言うと、これはエコキュートが巨大化したようなものらしいです。そして、その周囲には、風力発電の模型や「固体高分子型燃料電池」というもの

